

令和5年度全国学力・学習状況調査結果概要について

平素は本校教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和5年4月中旬に実施しました「全国学力・学習状況調査」結果の概要及び今後の本校の取組み等について、下記のとおりお知らせします。

記

1. 実施目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（「令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要項」より）

2. 調査対象・実施日 第6学年・令和5年4月18日（火）

3. 調査の内容

（1）教科に関する調査「国語」「算数」

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおり。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす影響や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

（「令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要項」より）

4. 調査結果の取扱い

- 調査結果の分析・検証を踏まえ、本校の教育指導等の改善に向けて計画的に取り組めます。
- 家庭や地域とも成果・課題を共有し、改善につなげるものとします。
- 調査結果は、中学校区でも共有し、共通で取組める内容について検討・実践していきます。

調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要であること。

（「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の取扱い及び調査結果の活用について（文部科学省 通知）より」）

5. 調査結果の概要（ダイジェスト版）

本校の「強みのみられる内容」

- ◇どの子も最後まであきらめず、問題を解き切ろうとする意欲。
- ◇自分の思いや考えを言葉にして書こうとする積極的な姿勢。
- ◇日々の学習の積み上げによる漢字力。
- ◇基礎・基本となる知識・技能を活用して考え、工夫して表現する力。
- ◇自分たちで話し合い、解決しようとする態度。

本校の「課題のみられる内容」

- ◆問題の意図を正確に理解できないまま、自分の考えを書き、誤答となる。
- ◆目的を意識して、中心となる語句や文を見付けて、要約する力。
- ◆語彙不足や大事なポイントが欠けた説明不足を含んだ「説明力」の弱さ。
- ◆授業で学んだこと、他の学習に生かすことが苦手。
- ◆家庭での読書量の少なさ。

※上記のダイジェスト版についての詳細は、次の「調査結果の分析・考察・以後の改善点」をお読みください。教科（国語、算数）及び質問調査（アンケート）にそれぞれ分類して記してあります。

6. 調査結果の分析・考察・以後の改善点

（1）教科に関する調査について

「国語」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

- ◇今年度も漢字に関する問題が3問出題されました。漢字の書き取り問題2問のうち、「期間」と書く問題は正答率80%を超え、全国の正答率を大きく上回りました。また、送り仮名に関する問題（くらべて→比べて）も正答率98%を超え、全国の正答率を6ポイントも上回りました。子どもたちの高い漢字力は、日々の丁寧な漢字指導のみならず、既習の漢字を使って表現させる指導の成果と分析しています。
- ◇「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題は、全国平均正答率が60%程度と、全国的に見ても課題のある問題といえます。この問題において、本校の児童は70%近い正答率でした。情報処理能力において、重要な言葉を整理して捉えることは必要不可欠です。さらに細かく分析したところ、本校の児童の多くが、語句の意味を理解し、語句と語句との関係付けをしっかりとできているところに強みがあることが分かりました。
- ◇国語の最終問題は「敬語」の問題でした。内容は、地域のボランティアの方へのインタビューの際に使う、正しい敬語（尊敬語：おっしゃた）（謙譲語：うかがう）を選択するものでした。特に、謙譲語は敬語の中で難しく全国的に見ても謙譲語で誤答となるケースが多かったです。（本校は、60%近くの正答率でした。）
- ◇今年度の国語の分析結果から、最も成果として表れたのが「無解答率」です。全14問で本校の児童の平均無解答率は、わずか4%（全国：4.8%）でした。ここ数年、本校の無解答率が20%近くあり、大きな課題でした。それが全国を上回る4%という数字として表れたことは驚きです。これまでの課題から、問題に対し一人一人の児童がしっかりと考える授業スタイルの確立。そして、過去問を使った練習なども、大きな成果につながったものと考えます。（下記：児童のアンケート結果より・・・）

《今回の国語の問題の解答時間は十分でしたか》

	丹比小	全国
余った	57.1	29.3
ちょうどよかった	23.8	34.8
やや足りなかった	17.5	27.0
全く足りなかった	1.6	5.9

時間が「余った」と回答する児童が60%近くありました。全国の数値と比べても、本校児童の問題を解くスピードは素晴らしいものがあります。日々の授業での取り組みはもとより、問題の形式に慣れたことも、結果に表れています。

【課題のみられる問題・内容】

- ◆今年度の国語で全国平均正答率を下回ったのが「記述式」の問題でした。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で各1問（計3問）の記述式問題で、誤答に共通点があることを確認しました。それは、問題の正確な「理解力」と書き表し方に関する「説明力」の不足です。「話すこと・聞くこと」の記述式問題は、2種類の異なった内容（問題点・解決方法）のカードそれぞれから、必要な情報を用いて、工夫して書かなければなりません。しかし、解決方法が書かれたカードを用いず書いてしまう児童が多く、誤答となっていました。問題を正確に理解できていないことが分かります。また、「書くこと」の記述式問題でも同じような傾向が見られました。2種類（運動・食事）の両方の視点から、自分の考えをまとめなければなりません。誤答の内容を見ても、2種類のうちどちらか一方の視点が欠けてしまっている児童が多く、正答率は50%を下回りました。
- ◆正答率は86.9%と高いですが、全国より－3%下回った問題が「要約」の問題でした。実は、この問題も2種類（資料1・資料2）から中心となる語句や文を見つけられなければ正答にならないものでした。「要約」において、中心となる語句や文を捉えることは必須であり、中学年から繰り返し指導していく内容でもあります。

課題改善に向けての今後の取組み

- 今年度も漢字の書き取り問題で高い正答率を確認できたのは、日々の漢字学習の成果と考えます。限られた時間での漢字学習ではありますが、その後の家庭学習での反復練習や小テスト・大テストでの積み上げが、好結果に現れています。また、やり直し等の細かな指導の大切さを再確認できました。
- 本年度、無回答率の低さは過去に例がないほどで、ほぼ全員が最後の問題までたどり着けていました。問題に対し最後まで解き切る強みは、今年度のみの成果でとどまるのではなく、これから先も本校の強みとして継承できるようにしていきます。そのためにも、通常の評価テスト以外の問題（過去問等も活用）にもチャレンジさせるなど対応していきます。また、「速読」や「速記」なども必要な知識・技能として、中学年以降の学習に積極的に取り入れ、指導していきます。
- 記述式問題、要約に関する問題において、2つ以上の情報を捉えなければならない問題に対して、本校の課題が明確に現れました。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力は、一定身に付いている児童が多い中、情報と情報の関わりを捉えたり、グラフなどを用いて考えたりする部分が定着できていない児童が50%近くいました。これらの課題の克服は、授業改善を基本に進めていきます。国語のみならず、すべての教科の授業で、文章を書き始める場面では、書く目的や内容を検討する時間を十分に設定していきます。また、何をどのように書くのかについても文章の種類やその特徴を関連付けて指導していきます。それらの「見通し」を児童自身が十分にもつことで、適切な情報処理や正確な要約、さらには説明力の向上につなげていきたいと考えます。

「算数」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

- ◇今年度の算数の問題にて、本校の強みとして顕著に表れたのが「記述式（書く）」の問題での正答率の高さです。国語では「記述式」問題で課題があると示しましたが、算数の「記述式」では、全4問中2問が全国平均正答率を大きく上回り、残り2問も全国と差がない結果でした。全国的に見ても「記述式」の問題は無回答率が高い傾向にあります。しかし、本校の「記述式」問題（全4問）の平均無解答率はわずか3.3%（全国6.3%）。この値は過去数年の結果と比較しても、抜きに出て素晴らしいものでした。日々の授業から問題に対し、自分なりの考えをもち、工夫して表現してきた学習活動の積み重ねが成果として表れています。（下記：児童のアンケート結果より…）

《今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。》

	丹比小	全国
全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	84.4	80.3
書く問題で解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがある。	14.1	15.9
書く問題は全く解答しなかった。	1.6	1.6

自分の考えを筋道立てて書く（説明する）ことを苦手とする児童が多い中、表の示す数値は本当に価値があります。

◇算数全 16 問のうち、平均正答率が全国平均を最も上回った（+9%）のが「（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式」についての問題でした。この問題は、（ ）を用いた基本的な分配法則の理解が必要な上、さらに示された式を、具体的な場面と関連付けることが求められていました。本校の児童はドリル等を使った反復練習で、分配法則の仕組みや計算の手順をしっかりと理解できています。加えて、難易度の高い「具体的な場面と関係付けて式を読む能力」に 80%近い児童が到達できています。

◇国語と同じく算数でも全 16 問題において、無解答率の平均値が全国より上回り（本校 1.1%, 全国 3.4%）しました。「16 問中 10 問で無解答なし」という驚きの結果でした。普段の授業やテストに加え、練習問題でも学年全体で、粘り強く問題に取り組み解答することに識を高めてきた結果として捉えています。

【課題のみられる問題・内容】

◆今回の算数で全国平均正答率と比べ大きく下回り、本校の課題として挙げるのが「加法（たし算）と乗法（かけ算）の計算」の問題でした。計算問題として 2 問出題されていましたが、いずれも計算の工夫が求められるものでした。1 問めの（ ）を用いた計算をすることはできていましたが、加法と乗法の混合した計算では、乗法を先に計算せずに、式の左から順に計算してしまい誤答となる児童が 35%であることが分かりました。

◆全 14 問中、全国平均正答率と比べ最も低かった問題が「割合」に関する問題でした。この問題は百分率で表された割合についての理解が問われるものでした。割合の授業やドリル、テストでは小数で表された割合を百分率（%）で求めたり、その逆パターンが問題として多く出題されます。これらの多くが基準量を 100 として考えるものがほとんどで、10 を基準とした比較量の割合（歩合）についての理解がほとんどできていませんでした。本校の正答率は 40%を下回る結果となりました。

課題改善に向けての今後の取り組み

○算数の「記述式」問題の正答率や無解答率が全国を上回るという結果は、本校の強みであり、自力解決力を身に付けさせる長年の授業改革の成果といえます。しかし、誤答について詳しく分析する中で、見えてくる課題が「説明力」の弱さです。例えば、図形の「記述式」問題では、図形の構成要素（頂点の数、辺の長さ、内角等）に着目することが必要不可欠となります。構成要素を捉えられないと、図形の性質や計量と結び付けて説明することはできず、正答にはなりません。いかなる説明においても、どういう要素が必要なのか、どういう計算の決まりに基づいているのか、その根拠を明確にすることが求められます。日々の授業でも、考えた説明のどこに「不十分さ」があるのかを児童に考えさせる授業を展開していくなど、さらなる授業改善に努めます。

○全国学力調査では、学力の 3 観点（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」）のうち、2 観点（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」）を見取る問題がそれぞれバランスよく出題されます。今回の算数において、記述式を含む「思考力・判断力・表現力」の問題（全 7 問）のうち 5 問が全国平均を上回りました。しかし、基礎的な内容を問う「知識・技能」の問題（全 9 問）の平均正答率が 2%下回りました。上記に挙げた 2 つの課題点も「知識・技能」を問う問題でした。計算の反復練習だけでなく、計算の決まりや公式など、算数用語を適切に使いながら説明できる力も身に付けさせていきます。

（２）質問紙調査について

※児童質問紙調査（アンケート）は、全 69 の質問があり、本年度の主な調査項目は、以下のとおりです。

「児童の生活状況」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等」「地域や社会に関わる活動の状況」「ICT を活用した学習状況」「主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」「学習に対する興味・関心」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

◇「自分には、よいところがあると思いますか
（自己肯定感）」
当てはまる・・・53.1% 《全国：42.6%》

◇「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」
肯定的回答・・・93.7% 《全国：89.8%》

◇「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していましたか」
肯定的回答・・・73.4% 《全国：63.7%》

◇「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさをいかして解決方法を決めていますか」
当てはまる・・・56.3% 《全国：31.8%》

【課題のみられる問題・内容】

◆「学校に行くのは楽しいと思いますか」
肯定的回答・・・85.5% 《全国：85.3%》
否定的回答・・・14.1% 《全国：14.6%》

◆「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日どのくらいの時間、勉強をしていますか」
30分より少ない＋全くしない・・・23.5% 《全国：16.0%》

◆「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日どのくらいの時間、読書を読みますか」
10分より少ない＋全くしない・・・46.9% 《全国：39.9%》

◆「読書は好きですか」
肯定的回答・・・67.2% 《全国：71.8%》
否定的回答・・・32.8% 《全国：28.2%》

課題改善に向けての今後の取組み

○本校の強みのから、自分自身を肯定的に受け止めている児童がとて多く、また自分たちが主体となり、仲間と協力して学習や活動に取り組む姿勢が身に付いていることが分かります。そして、授業や特別活動で自分の考えを積極的に伝えるだけでなく、仲間の立場や考えを尊重する態度も長所といえます。これは、自分が先生や仲間に認められているという安心感がベースにあるからです。本校ではあらゆる場面で「自己肯定感」を高める取組を、全教職員が意識して行っています。その成果が少しずつ表れ、学習面での自己表現力や仲間を大切にする気持ちの高まりにつながっていると分析します。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の回答に、85%を超える児童が肯定的であることは、学校として何よりうれしく思います。しかし、14%の児童が否定的であることに目を背けることはできません。「自己肯定感」を高める取組みを進めるとともに、学習面や友達関係、体調面での個々の悩みにもしっかりと寄り添い、保護者の方々とも連携し、一人一人の子どもたちの見取りをこれまで以上に丁寧に行っていきます。

○「学校の授業時間以外の勉強時間」についての回答では、「30分より少ない＋全くしない」の回答が23.5%と全国結果と比較しても、勉強の時間が少ないことが分かります。しかし昨年度、同じ質問項目での本校児童の回答が49.2%だったことを考慮すると25.7%も上がっています。これは、昨年度より本校で取り組み始めた「家庭学習一週間チャレンジ」での成果の一部と考えています。毎回、取組みの検証と振り返りを丁寧に行い、保護者向けの通信も発行させて頂く中で、少しずつですが身に付いてきている部分だと分析します。今回の家庭学習力の向上に合わせて、読書指導も充実させていきたいと考えます。毎日の朝読や学校司書が中心となって進める読書指導だけでなく、授業や取り扱った教材と関連させた幅広い読書指導も今後積極的に進めていきます。